

日本全国で  
朝大生が  
活躍



# 地域とながら

丸の内朝大学のキャンパスは、大手町・丸の内・有楽町の、通称大丸有エリア。東京だけで活動している市民大学と思われられるかもしれませんが、実はそうでもありません。地域と一緒に、学び、楽しむ。広がる朝大学の活動を紹介します。

## 熱い思いを聞いて 固まる受講生の決意

「朝大生は目の輝きが違う」  
そう話してくれたのは、2012年夏学期に開講した「地域プロデュースークラス富山編」のF.W(フィールドワーク)で訪れた五箇山合掌の里・支配人の西敬一さん。宿泊型の農業体験プログラム「五箇山塾」の塾長も務める西さんは、全国から訪れる多数の観光客と接しています。  
「世界遺産の合掌造り集落を保存、伝承するにはどうすればいいか。過疎化する地域をどう盛り上げるのか。朝大生の顔を見て、自分の考えをストレートに表現しても受け止めてもらえそうだと思えました。だからちよつと熱くしゃべり過ぎました(笑)」

都市からの観光客の多くは、世界遺産を見学しておしまい。一度見たらもう十分という、いわゆる「観光スポット」のままではいけないと、西さんは農業や食文化体験の場もつくってきました。  
「全国の人に何度も、継続して来て欲しいんです。そのためには、ネットワークが広がるのが大切だと思っています。こちらの考えも伝わりやすいし、都市の人が思っていることも受け止められる。そうならば、五箇山を盛り上げるアイデアも生まれるかもしれません」

ネットワーク。都市と地域がつながることで生まれる効果。そのひとつは、これまで地域活性化のために、地域の人が地域の中だけで考えてきたアイデアに、違う視点を盛り込めることです。ソーシャルネットワークの発展や東日本大震災を経て、「つながり」の時代といわれる今、都会人としての感覚が、地域の中で求められています。

朝大学が、地域に飛び出したのは開校間もない2009年夏。「温泉トラベルプランナークラス」が、宮城県でF.Wを行なっていたからです。以来、農業クラスなどで週末に行われるF.Wは朝大学の特徴であり、丸の内の朝の時間だけでは得られない、様々な気づきや学びを生み出しています。

中でも、2010年に経済産業省のジャパンプロデュースプラットフォームの協力を得て開講した「地域プロデュースークラス」は、地域と強い関係構築しているクラスです。丸の内での座学、地域でのF.Wを経て、地域が抱えている問題を解決するアイデアを講座最終回で発表します。

2012年は、夏に富山、秋に三重をテーマに開講。東京で働いているけれど、自分の生まれ故郷を元気にしたい。いずれは地元と東京を結ぶ仕事をしたい。そんな、地域を盛り上げる力になりたいと

